

神の御前に生きる

マタイ25：31～46

生きている私たちは必ず死を迎えます。そしてその後のことについて、神のことば聖書は「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている(ヘブル9:27)」、「その人の行いに従って、報いられる(ローマ2:6)」と、神の御前のさばきの事を記しています。全ての人間は神の前に出なくてはなりません。それは信じる私たちも同じです。しかし救い主イエス・キリストを信じる私たちにとってこの時は、十字架の血による罪の赦しと、永遠のいのちが与えられ、報いが与えられる栄誉のときです。ただし、クリスチャンといっても様々です。

完全な知識を持っておられる神様は、人の全てを知っておられ(ヨブ37:16)、神の前に、隠されているもので明らかにされないものはありません。神様は人の全てを見て、報いを与えられます。 ジョン・ウエスレーは「人間は神様の前に於いて、毎瞬間の生き方を、責任を持って報告しなければならない」という考え方を持ち続けました。

「神の御前に生きる」生き方とは、どのような生き方なのか、みことばから学びましょう。

聖書の学び (マタイ25：31～46)

I、左右に分けられる主

1、イエス様が栄光の座に着かれたとき、集められた人々を右左に分けられる法則があります。どのような法則でしょうか？ (32節)

①**右：羊**…迷いやすく弱く、羊飼いがいないと生きていけない、羊飼いの声を知り、羊飼いの思った所に付いて行く者 (34節)

②**左：やぎ**(山羊)…迷わないので、羊飼いは必要ない。自分の好きなところを自分で選び、行ってしまふ。(41節)

II、主が喜ばれる法則と、嫌われる法則

1、右の羊たちにお褒めのことばをかけて頂ける理由は何でしょうか。
(34～40節)

①弱く貧しく、肉体的な苦しみ、困難にあった人を助ける。

②自分の危険を顧みず、励ます。

2、人から軽んじられる最も小さい者に良くしてあげたことは、その人ではなく、どなたにしたと主イエス様は言われたのでしょうか。

3、左にいるやぎたちに言われたように、主イエス様に嫌われるのは、どのような者でしょうか。(41～45節)

- ①無慈悲、無関心
- ②高慢で、優越感を持ち、小さい者を見下す
- ③仲間であるのに、見捨てる。

Ⅲ、主に喜ばれる生き方の秘訣

1、人から軽んじられる最も小さい者に良くしてあげる秘訣を
I テサロニケ5:9～23から考えましょう。

- ①主と共に生きる(I テサロニケ5:10)
- ②御霊に従う(I テサロニケ5:19)
- ③預言：みことばを大切にする(I テサロニケ5:20)

愛のあるところに神あり

(レフ・トルストイ)

半地下の仕事場兼住居に住み、靴を作る仕事をしていたマルチン。彼は妻に先立たれ、苦勞して育てた一人息子を病気で失いました。自暴自棄になって神様に文句を言い、教会にも行かなくなっていました。しかし友人が来て、全てを全能の神の手におゆだねし、聖書を読み、自分ではなく「神のために生きること」を薦められ、もう一度聖書を読み始めたのです。

ある夜聖書を読んでいるとイエス様に「明日行くからね！」と言われたように思いました。

次の日は雪でした。半地下の窓の下で仕事をしていると、高齢の男性が日銭のため雪かきの仕事を苦しそうにしているのを見ました。彼は家に招き、温かいお茶でもてなしました。次に、震えて立っている赤ちゃんを抱いた女性を見て招き、食べさせ、自分のコートをあげました。夕方、行商の女からリンゴを盗って捕まり、怒鳴られている少年を助けました。

夜になりマルチンは今日あったことを思い巡らしていました。丁度読んだマタイ25章40節のみことばが心に入って来て、「明日行くからね！」と言われたイエス様が、本当に自分の処に来て下さり、その「救い主」を正しくお迎え出来たことを思うと、嬉しくなりました。